福井の文化をきり拓く Fukui Art Culture Forum

Fukui+art FUKKart

ふっか～と
2012.3
Vol.38

「FUKKart（ふっか～と）」は福井市文化会館を拠点に活動するNPO法人福井芸術・文化フォーラム発行の文化誌です。

2012年度 福井芸術・文化フォーラム 主催事業のご案内

2012 4月

みんなで舞台に立とう！！シーズン7～ひびけ！とどけ！わたしたちの鼓動～

4月8日（日） 福井市文化会館

県内の特別支援学級や特別支援学校に通う児童生徒たちによる音楽とダンスの舞台発表。音楽劇「おしゃべりなたまごやき」に加え、太鼓にも挑戦。

主催：「みんなで舞台に立とう!!」をひろげる会／NPO法人福井芸術・文化フォーラム

6月

レッツ☆狂言 with 三宅兄弟

・狂言入門講座 6月17日(日)
・「茸（くさびら）」を演じるワークショップ 6月17日(日)
・狂言鑑賞会「茸（くさびら）」「棒縛り」「ミニワークショップ」 7月16日(月・祝)

いずれも 福井能楽堂（福井市民福祉会館内）

子どもからお年寄りまで、どなたでも楽しめる伝統芸能体験。

8月

劇団500歳の会「いつか見た男達 ～ジェネシス～」

8月20日(月) 福井市文化会館

原作＝松原敏春　監修＝佐藤B作　脚本＝千葉雅子　演出＝福原充則

演劇界を走り続け、今年50歳を迎える怪優たち10人が決起。「芝居者の真髄ここにあり！」。作家・故松原敏春が1981年佐藤B作率いる劇団東京ヴォードヴィルショーに書き下ろした痛快作『いつか見た男達』に挑みます。

9月

まちげき2012

9月21日(金)～23日(日) 福井市中心市街地エリア一帯

今年もやります。街なかのあの場所この場所が劇場になる3日間。街を歩きながら、パフォーマンスやワークショップを楽しもう！

◎事前に「舞台技術・制作講座」を開催 …企画・運営に必要なノウハウを学んで一緒にまちげきを盛り上げよう！

まちげき2011より

11月

福井県少年少女合唱フェスティバル2012

11月11日(日) 福井市文化会館

県内で活動する少年少女合唱団が集い、日頃の活動の成果を披露。福井芸術・文化フォーラムのプロデュースにより初めて開催します。

12月

オペラシアターこんにゃく座「ねこのくにのおきゃくさま」

12月21日(金) 福井市文化会館

原作＝シビル・ウェッタシンハ
（訳＝松岡享子　福音館書店刊による）
台本＝福田善之　作曲・芸術監督＝林光

日本語による生の歌声とピアノの音色が会場いっぱいにひろがります。子どもから大人まで楽しめるお芝居です。

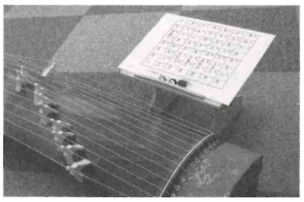
主催：子どもいきいきプロジェクト／NPO法人福井芸術・文化フォーラム

2013 3月

第11回 芸文いこさ寄席

2013年3月20日（水・祝） 福井市文化会館

11回目を迎え、ますます豪華な顔ぶれでお届けします。



Arts in Education ～日本の音～

福井市内の小学校・中学校・特別支援学校に和楽器の専門家を派遣。子どもたちに、日本の伝統音楽である箏（こと）や尺八を体験・鑑賞する機会を提供します。

事業のなりたち

フォーラムの事業は「企画部会」で企画立案しています。メンバーは市民の皆さん。「何かやってみたい」「福井の街を文化で元気にしたい」という人なら誰でもメンバーに加わることができます。

そして事業の実施が決まると、各事業ごとにプロジェクトチームが作られます。プロジェクトチームは事業の実働部隊です。（4ページ、会員募集中のコーナーも参照してください）

レッツ☆狂言 プロジェクト

「狂言」という単語は知っていても、それが何なのか説明できる人はどれぐらいいるでしょうか？

この企画は、普段の生活では出会うことがあまりない狂言ワールドにあなたを誘います。「入門講座」「実践ワークショップ」「鑑賞」と3つの構成からなる「レッツ☆狂言」は、どの切り口からもあなたの興味やスタイルに合わせて参加できます。ワンコインで手軽に狂言を知る「入門講座」、より深く狂言の世界に触れ、かつ役者になってプロと共演することを目的とした「実践ワークショップ」、解説付きで初心者でも楽しめることができる「鑑賞」。全てに参加してディープに楽しむもよし、入門講座で事前知識を頭に入れて1ヶ月後の「鑑賞」に行くのもよし、時間がない方は鑑賞のみの参加もOK。

この「鑑賞」では、一般市民とプロの狂言師のコラボの舞台「茸（くさびら）」と、若手狂言師の三宅兄弟が兄弟ならではの息のあったお芝居を見せてくれる「棒縛り」を披露します。今までありそうでなかった、狂言ワークショップと狂言公演は、子どもからお年寄りまで、幅広い世代が一緒に楽しめるものです。詳細は4月下旬完成予定のチラシをご覧ください。

避難訓練コンサート プロジェクト

「避難訓練コンサート」は、お客様や演奏家も参加し、より実際のコンサートに近い状況で行う避難訓練です。横浜市のみなとみらいホールをはじめ、この大規模避難訓練を行っている館は、2011年3月11日の東日本大震災以降、全国的に増えてきています。この避難訓練コンサートを2013年度に福井市文化会館で実施するため、このプロジェクトは動き出そうとしています。2012年度は、避難訓練コンサートに向けた準備年とし、まずは、避難誘導の勉強会をこの夏までに実施します。そこで見えた課題や、やるべきこと、目的をきちんと定め、段階を踏んで、関係各所に協力を仰いでいこうと思います。

まちげき プロジェクト

現在、招聘アーティストと会場を鋭意選定中。フリンジ参加のアーティスト募集も開始します。そのほか、今回はフォーラムプロデュースの企画もいくつか予定しています。他の団体や会場主の方たちと連携・協働した取り組みも進めていきたいと考えています。あれこれとさまざまなアイデアが出てきてとても賑やかなプロジェクトです。「まちげき2011」の成果や反省点をふまえつつ、今年もさらにまちげきを盛り上げます！

プロジェクト進行中！

この記事を書いている2月末日現在、各事業はこんなふうに動いています。

歌声 プロジェクト

「福井県少年少女合唱フェスティバル2012」の開催に向け、準備を進めています。いよいよ参加団体の募集を開始します。

このフェスティバルは、県内で活動する少年少女のコーラスグループが一堂に会して合唱の祭典を繰り広げる大会です。参加資格は県内の小中学校で活動している部・グループ又は県内で活動しているジュニアコーラスグループです。小人数のグループでも楽しく参加ができる様に音響、照明等にも工夫を凝らします。単独演奏の他に参加団体が全員で歌う合同演奏も行います。

- ●日　時　11月11日（日）午後1時開演（予定）
- ●場　所　福井市文化会館（ホール）
- ●参加費　無料（但し出演者1名に付き2枚程度の入場券販売協力をお願い致します。ノルマでは有りません。）
- ●参加団体　10～15団体

“知財”続編の「芸文講座」を開催

さる2月19日（日）午後2時から福井市文化会館会議室で「芸術・文化活動と知的財産権の基礎知識および最近の話題から（続）」を演題として実施しました。講師は大阪観光大学観光学研究所客員研究員の山下博氏。昨年度も出席の数名を含む15名が参加し、質疑応答を通じ、具体的な著作権問題に直面したり、実践したりしている方もおられ「協力をさせてもらいたい案件があったし、皆さんと交流出来て良かった。」との声も聞かれました。

また、文化庁著作権課及び特許庁作成資料からの引用を含むレジュメ（14頁もの）を配布したこともあり、終了後には、席上紹介の関連資格に挑戦したいので指導して欲しいという方や、「地元紙にも取り上げられたが、企画したユニークなファッションショーについて著作権で押さえられないか？」との質問も寄せられました。

縫原弘子ダンスワークショップ　ASOBI 座 縫原弘子 project
CONTEMPORARY DANCE WORKSHOP & SHOWING

身体（からだ）でコミュニケーション♪

講師に縫原弘子さんをお招きし 2011 年 8 月末からの約 3 ヶ月間、コンテンポラリーダンスを通して出逢った老若男女の仲間たち 30 名が自身の身体と心と向き合いながらダンス作品をつくり、発表しました。
はじめはぎこちなかったワークショップですが、回を重ねるごとにみんなのびのびと自由に『自分』を表現できるようになりました。呼吸を通して自分の身体のクセや凝りを緩めていく。『自分』と向き合って心も身体も開放していく。何かにとらわれることなく気持ちよく身体を動かし『自分』を表現している姿はまさにコンテンポラリーダンスでした。

講師 縫原 弘子

8 月末から 12 回のワークショップを経ての発表でした。
身体と心をつなげたく、身体の中身や細部までイメージ出来るような地味な作業をやり続けましたが、皆さん本当によくついてきてくれました。正直、1 回目の日はさすがに身体がガチガチな方が多く、「伝わっているんだろうか」「もう来てくれないのではないか」などと思いドキドキしましたが、次回からも皆さん「身体が楽になった…」と言って喜んで来て下さりホッとしたのを覚えています。逆に想像していたよりも皆さんまじめで、私も元気をもらいましたし楽しかったです。
心と身体が一体にならないと表現は嘘になってしまう…身体が先行しだすと嘘っぽくなり、心だけが先行すると伝わらないものです。自分の身体を見つめる作業は地味ですが、それによって自分の知らなかった部分を再確認し、少しだけでも自分を愛おしく思えるようになってくれたらうれしいな…と思いました。そして、その身体を今度はお客様がどう受け取るか楽しみで舞台に臨みました。
作品の振り付けは私は少ししかしていません。出演者の皆さんが独自で作り上げました。結果はうまくいったのではないでしょうか…。まだまだ、お伝えしたい事が沢山あり、皆さんとまたワークショップでお目にかかれたらいいな…と考えています。

参加者の声

ワークショップでは、身体を緩め、更にほぐれていない箇所に呼吸を入れて「からだの穴」をあけるというトレーニングをしたことを覚えています。縫原先生の言葉は一つ一つが的確で、心に届く言葉でした。
先生と接してみて、ダンスとは先生自身が、毎日の暮らしのなかで行っていて、生活の中から紡ぎ出されているのだと感じ、私の中のダンスの位置付けも変わっていきました。
あるトレーニング中に、頭部の動きにこだわっている自分がいました。先生から、「きっと開放されたがっているんだね」と言われ、改めてそれに気付いたのでした。何にこだわっていたのかはここでは言えませんが、やっぱりそれは自身の生活から生み出されたもので、私の深い部分に根ざしたのもでした。ごく私的な体験ですが、コンテンポラリーダンスのこのような味わい方もあるのだ、と知った体験です。（みぃ）

コンテンポラリーダンスってなんだろう？判らないまま何か楽しそうと期待して応募、縫原先生の指示で久しぶりに錆びた関節を動かし、体で表現し（なかなか思い通りには動きません）相手の呼吸を感じるレッスン。
発表直前に数回風邪で休んでいたのでとても不安が有りましたが、前日と当日のリハで、縫原先生の指示で動きの微調整が何度か有りその間に自分の役割が段々と見えて楽しもうと思えてきました。舞台の上で一人一人がちがう動きをしているのに、他の人の呼吸を感じ一つの景色が出来あがっていく。感激。（自分の動きはシャープでは無かったけれど）とても楽しかったです。縫原先生、スタッフの皆様、そして一緒の舞台でコンテンポラリーをした皆様、ありがとうございました。（ちづこ）

「ベンチに腰掛けて」

“なんでここにいるんだろう？”―本番が終わり打ち上げの最中、ふと緊張の糸が切れた状態で考えていたことです。特に否定的な思いではないんです。そりゃあワークショップ初日、男は自分だけと告げられた時は面食らいましたが、ワークショップを重ねる中で感じた

- 皆やりたい！って同じ方向を向いた人たちの集まり
- 同じ目線で丁寧に指導してくれる講師
- 解らないところは“解らない！”とはっきり言う生徒
- 度忘れやミスをカバーするように飛び交う小声
- ソロの場面で聞こえてくる周りの声援

とても良い経験でした。だからこそなおさら参加するきっかけが“なんとなく”ではしっくりこない…
以前から何となく感じていたこと、社会人になって行動範囲が限定されていく中で家族と同僚を抜かして 1 週間にどれだけの人と交流を持てているのか？考えるより先に寂しさが心を吹き抜け、それ以上は考えまいと防衛本能が働きます。この吹き抜けた穴に引っ掛ったのが今回のワークショップなのかな？でもこの“なんとなく”は思いつきではなくひらめきに近いもの。そして文化フォーラムは“なんとなく”のきっかけが無造作に置かれている場所。これからもなんとなくお世話になりたいと思います。（全日の人）

会員募集中

家でゴロゴロのYさん、会員になる の巻

福井芸術・文化フォーラムはどなたでも参加できる市民の団体です。一緒に活動しませんか!?

ちょっと、あなた。退職してから家でゴロゴロ、ゴロゴロ。私達主婦はね、退職ってものがないのよ。お掃除や洗濯、お買い物。ちょっとぐらい手伝ってちょうだい。

おそうじ…せんたく…かいもの…そんなの無理だよ。

はあ、情けないわね。働いている頃は「俺がいないと会社がだめになる」なんて言ってたのに。

もう十分働いたんだからちょっとぐらいゴロゴロさせてくれよ。

働いている頃は格好良かったね。でも今のあなたにご飯作る気がしない。

おいおいそんなこと言うなよ。

あーあ、なんか動物園のサルにえさ作ってる気分。

動物園のサル？おまえうまいこと言うな。

ああ、夫婦生活考え直そうかしら。

えっ？おいおい本気じゃないだろ。

私はね、かっこいいあの頃のあなたでいてほしいの。

かっこいい？いまさらどうやったら格好良くなるんだよ。

ねえ、自分のためにもなって人のためにもなることしない？

そんな都合のいいことあるのか？

それがあるのよ。3丁目の斉藤さん知ってる？

ああ、たしか去年退職されたんだよな。歳は俺より一つ上。

それが最近若々しくなってね。とってもすてきなのよ。近所でも評判。

ふーん。

たしか福井芸術・文化フォーラムの会員になられたとか。

なんだそのふくい…げいじゅつ…なんちゃらって言うのは。

なんでもね、文化会館の企画や福井の街が元気になる企画を考えて実行しているNPOらしいのよ。

そんなNPOがあるのか。

斉藤さんね、朗読のワークショップに参加してそれがとっても面白くって会員になったらしいの。そして今では自分で演劇やダンスの企画をしているらしいのよ。

俺みたいな素人でも会員になれるのか。

「何かやってみたい」「福井の街を文化で元気にしたい」っていう人なら誰でもいいそうよ。

へえ、面白そうだな。

今度ね、狂言のワークショップがあるそうよ。行ってみない？誰でも能舞台に立てるそうよ。

俺でも能舞台に立てるのか。おもしろそうだな。

あらあなた、目が輝いてちょっと格好良くなってきたわよ。

そうか。それじゃ会員にもなってもっと格好良くなるか。

あなたすてき。

かくしてYさんは福井芸術・文化フォーラムの会員になりました。そして今では若い会員と一緒に企画やその運営に携わり、福井を盛り上げています。

ぜひあなたもYさんのように会員に！
年齢やキャリアなどは一切問いません。やってみたいという人はフォーラム事務局までお問い合わせください。

あなたに合ったかかわり方があります

■正会員（アートスタッフ）

年会費 5,000円
3通りのかかわり方
- ①会の運営を担う
- ②ひとつの事業の企画から実施まで
- ③気軽にちいさなお手伝い

■準会員

資金面での支援協力

個人賛助会員	年会費 5,000円
法人賛助会員	年会費 10,000円
団体会員	年会費 3,000円

※金額は年会費（1口あたり）です。年度更新となります。

FUKKART 舞台の裏から 7 ARTIST ESSAY

落語家　柳家 三三

福井の街とのご縁ができたのは「いこさ寄席」のプレ公演「出前寄席」がきっかけです。

あれは真打に昇進した年だから2006年の秋でしたね。福井市内の公民館を午前、午後、夜と1日3ヶ所ずつ、5日くらい一人で公演して廻ったんです。子供の頃から噺家になりたくてなりたくて、高座にあがるのが一番の生きがいのような僕も、ちょっと落語がキライになりかけたくらいハードな仕事でした。

ところがおかしなもので、忘れたくても忘れられない体験をしたこの街に妙な愛着がわいて「また来たい」と思っていたら、それが通じたのか、翌年もそのまた次の年も……。いつのまにか年に何度か訪れる大切な街になり、知り合いも大勢できました。

福井に来る楽しみ――まず第一は「食」。とくにおろしそばは何軒も食べ歩くほどのお気に入り。もちろんカニでもブリでも、東京で食べられないことはありませんが、その土地の食べ物をその土地で味わう――気づきにくいけれどすごく幸せなことなんですよね。

あと、この街には有名ではなくても心くすぐられるスポットがあちこち……これは皆さん自身で発見してみて下さい。

そして何より、落語を楽しみにしてくれる、あたたかいお客さんに会えるのがうれしいなァ。今回の「いこさ寄席」も、今からはりきっていますよ。

編　集　後　記

■今流行の“まちコン”、福井では“まちげき”を流行にさせたい。（K・M）

■洒落が通じたというお話。「芸文講座」当日は本誌前号も配布した。講演後に受講者の“ぶら下がり”に会うのは常だが、「編集後記」中のカーネーション云々に興味を示された方に曰く「小原糸子をファッションに目覚めさせたのは母方の神戸在住の従兄だったの覚えてる！？」に笑い。（H・Y）

福井芸術・文化フォーラムの活動を応援しています（2011年度法人賛助会員）

北陸労働金庫
財団法人 福井県予防医学協会
ホテルリバージュアケボノ
エースイン福井

発行・お問い合わせ

NPO法人
福井芸術・文化フォーラム

〒910-0019　福井市春山2-7-1　福井市文化会館内
TEL 0776-23-6905　FAX 0776-23-7905　開所時間 月～金 10:00～18:00／土日祝 休
E-mail geibun@geibun.info　◎公演・催し物の最新情報はwebでチェック　http://geibun.info/

■福井芸術・文化フォーラムはどなたでも参加できる市民の団体です。
■ご意見・ご感想・ご要望は、メールまたはFAXでフォーラムまでお気軽にお寄せください。

2012年3月31日発行（年4回発行）　通巻38号